

◆ 練馬都税事務所長賞 ◆

「税との支え合い」

練馬区立練馬東中学校 3年 村本 芽衣

昨今のニュースでは増税について多く取り上げられている。しかし、増税に賛成する人が僅かであるという現状に至ってしまっている。実際に私も税に対して良いイメージを抱いていなかった。なぜなら、私たちが払っている税金がどのように使われているのか現実的に想像がつかない上、テレビでは街ゆく人々の税金に対する意見が否定的であることが多いからである。

今年の夏、私は田舎に暮らす祖父母の家を訪ねた。私は、祖母、母、姉と一緒に食事へ出かけた。食事を済ませ、帰っていたその時、接触事故を起こしそうになった。とても怖かった。原因は道路に描かれている停止線がしっかりと整備されておらず、白線の色が薄れ、見えかかっていたからである。そこで私はふと、この白線は誰がどのように描いているのか気になった。調べてみると、道路の白線にも国や地方自治体の税金が使われていることが分かった。また、自動車に使われるガソリン税や自動車重量税、意外にも消費税や所得税の一部などの税金が使われるということを知った。当たり前のように車で駅に送ってもらったり、旅行に連れて行ってもらっているが、何事もなく安全に行ってこられるのは道路がきちんと整備されているからなのだと気が付いた。

さらに、子供達の遊び場である公園、街を守ってくれている警察や消防、毎週決まった曜日に来るゴミ収集、などと税金によって賄われているものと私たちは、身近で親密に関わっているということを知った。私はこれら全てが「税金」で賄われていることに驚きを隠せなかった。もしも、「税金」がない生活だったとする。そしたら私たちは安全に、豊かに、衛生的にできるだろうか。私はそうは思えない。つまり、税を払うという義務の裏には、私たちの生活を安全で、より充実した良いものにしてくれるという働きがあるということなのではないだろうか。

この出来事で私が思っていた税のイメージは一変し、むしろありがたいものであると強く感じさせられた。人々は、税金に対して納めることに意識が向きがちだが、もっと何に使われているのかを知るべきであり、税金とは私たちの日常が揺らぐことのないようにしてくれているということ、今一度見直すべきであると思った。

これらのことを踏まえて私は、増税は未来を見据えた社会方針であると感じることができた。今の私にできることは、税を払っている人達の期待に応えることであると思う。また、私が大人になって働く側になったとしても、次の世代へ繋ぐためにめげずに支えていきたいと思う。そして、積極的に社会に参加し、未来を創っていきたい。